

設問 I

問 1 次の文にあてはまる言葉や人物の名前を解答欄に書きなさい。

- (1) () は、子ども自らが学習の目標や計画を立て、実行し、結果の考察や評価をするというプロセスで展開する「プロジェクト・メソッド」を考案した教育哲学者である。これは現在の「問題解決学習」につながっている。
- (2) 日本のフレーベルとも呼ばれる () は、子どもの自発的に伸びる力がより望ましい方向に行くように、遊具や環境などでさまざまな刺激を与えて誘導する誘導保育を唱え、それを体系化して「幼稚園真諦」を著した。
- (3) ピアジェの提唱した発達段階において6歳頃～12歳頃に相当する時期は () である。この発達段階では「脱中心化」「保存概念」がみられる。

問 2 次の文は教育基本法の条文の一部である。(ア)～(オ)にあてはまる語句を語群からそれぞれ1つずつ選び、解答欄に書きなさい。

(家庭教育)

第十条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、(ア)のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、(イ)を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の(ウ)を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

(社会教育)

第十二条 (エ)の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、(オ)その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。

【語群】 生きる力 希望 公民館 個人 国家 社会 保護者
就学 自主性 自尊感情 自由 自立心 人格形成
生活 責任 創造性 地域 体育館 保育所

問3 次の（カ）～（コ）にあてはまる語句を解答欄に書きなさい。

（カ）が確立した「ストレンジ・シチュエーション法」では、子どもが養育者と分離した後に再会する場面を観察することで、子どもの（キ）の質を評価する。子どもの示す行動を評価することにより、（ク）型、（ケ）型、（コ）型の3つのスタイルが明らかになる。

設問Ⅱ

令和5年度から5年間の計画を国が定めた「第4期教育振興基本計画」のコンセプトの1つは「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」である。この「ウェルビーイング」について80字以内で説明しなさい。

設問Ⅲ

令和4年度の小・中学校における不登校児童生徒数は299,048人、このうち90日以上欠席している児童生徒数は165,669人、学校内外で相談・指導等を受けていない児童生徒数も114,217人といずれも過去最多です。（令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について 文部科学省）これに伴い令和5年3月には文部科学省により「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン 文部科学省）」が取りまとめられ、不登校対策の一層の充実に取り組むことになりました。

「学びの保障」とは具体的にどのようなことだと考えますか。「学びの環境や学びの多様化」を踏まえ具体例を挙げてあなたの考えを400字以内で述べなさい。